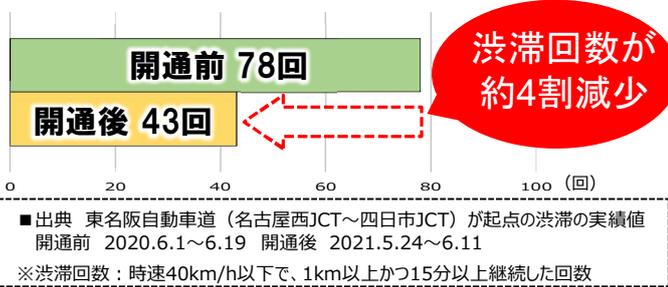


- 名二環の開通により、新たな迂回ルートが形成され、集中工事中には、交通分散が図られ、東名阪道の渋滞回数が開通前に比べて約4割減少しました。
- 渋滞発生時においては、伊勢湾岸道における分担率が最大約8割となり、迂回機能が発揮されています。

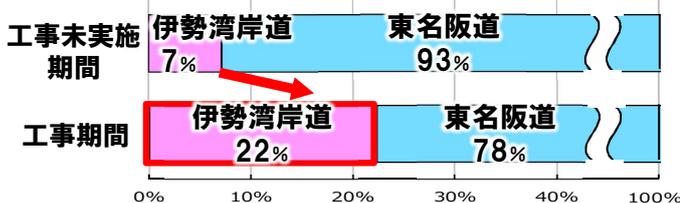
東名阪道集中工事時の迂回ルート



集中工事時の渋滞回数※ (東名阪道 名古屋西JCT～四日市JCT)



集中工事時の交通量分担率



最大渋滞発生時の交通量分担率 (5/31 上り(四日市→名古屋方向))

